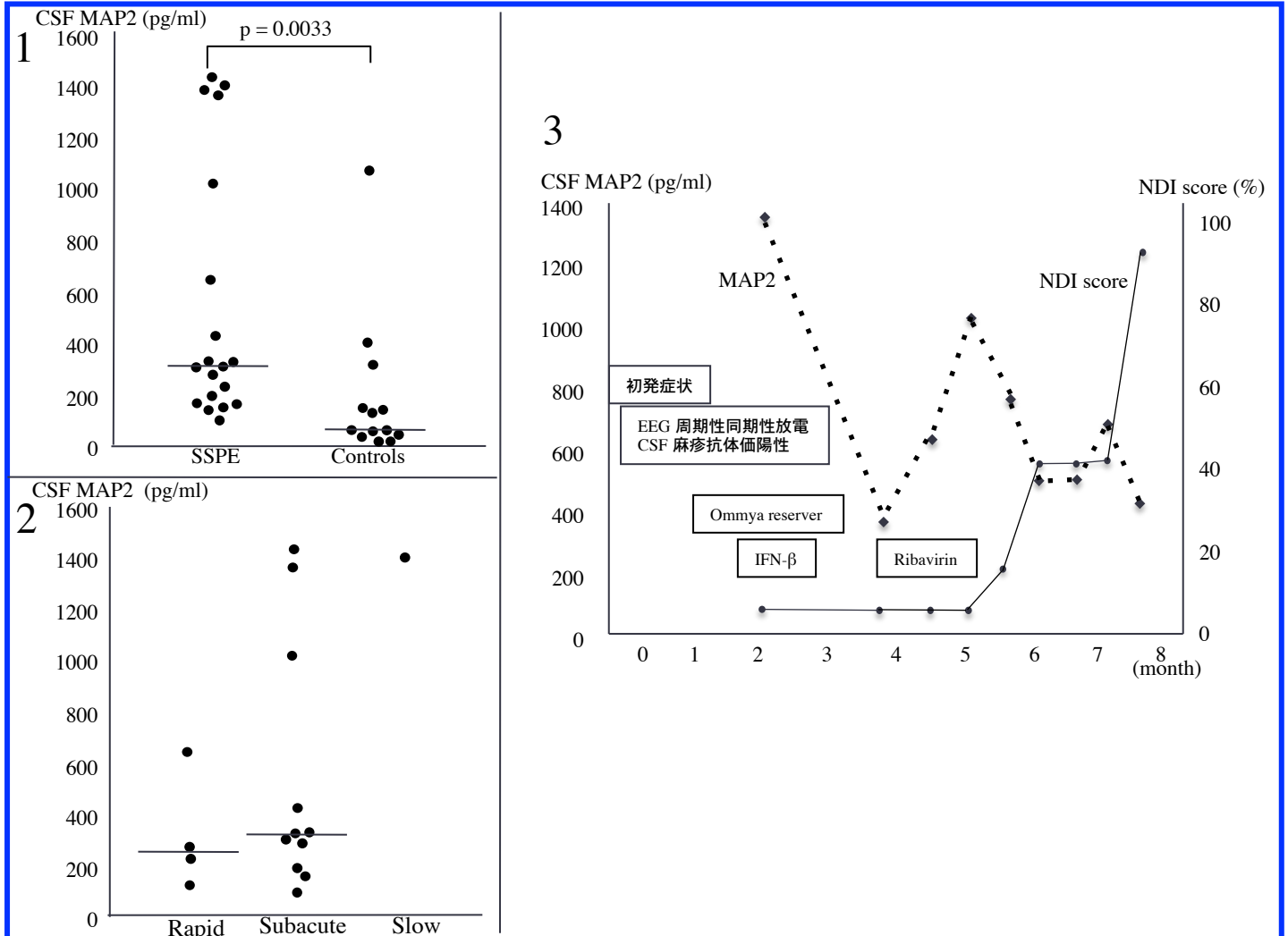


亜急性硬化性全脳炎における髄液中MAP2濃度の経時的変化の検討

研究分担者: 山口大学大学院医学系研究科小児科学分野 長谷川俊史

研究協力者: 山口大学大学院医学系研究科小児科学分野 松重武志, 大賀正一
鼓ヶ浦こども医療福祉センター小児科 市山高志

Department of Pediatric Neurology, Hacettepe University Faculty of Medicine Banu Anlar



重症度分類の策定・改訂

解説

1. SSPE19例および対照群13例における診断時の髄液中Microtubule-associated protein 2 (MAP2) 濃度の比較. SSPE群で有意に髄液中MAP2濃度が高かった ($p = 0.0033$).
2. 進行病型別の髄液中MAP2濃度の比較. 三群間に有意差はないが ($p = 0.082$), slow よりrapidで高値である傾向がみられる.
3. SSPE症例 (19歳男性) の髄液中MAP2濃度およびNeurological disability index (NDI) scoreの推移. 治療開始後に髄液中MAP2濃度は一旦低下している. その後, 段階的に症状が進行し, MAP2は症状進行前に上昇する傾向がある.